



一隅を照らそう
10月号

309号
毎月28日発行

E-mail: info@tougakuin.jp

仏陀との邂逅

住職 中島 有淳

紀元前、インドで興った仏教は東漸し、中国や東南アジア、朝鮮そして海を渡り、日本へと伝播しました。現在ではハワイ、アメリカ、ブラジルそして西欧地域へと拡がりを見せています。その教えは、求める者をして全て自分の内面に悩みの答えを含み、相手には慈悲の温かい心を提供しようとするものです。そうした釈迦の教えは、直接自らの手によって記されたものでなく釈迦をとりまく教団の発展と、それを支援する人々によるものであります。釈迦が悟られて在世に多くの弟子達や物語が史実として残されています。今回は俗に十大弟子といわれる方々を記します。

- 一、智慧第一 シャーリプトラ（舍利弗・舍利子）
真理を求める求道者がついに合った釈迦の教え
- 一、神通第一 マウドガリヤーヤナ（目犍連・目蓮）
前世の業の前に自らの神通力を捨てる
- 一、頭陀行第一 マハーカーシャパ（大迦葉・摩訶迦葉）
清らかな精神を追い求めた釈迦の後継者
- 一、天眼第一 アルニツダ（阿那律）
睡魔に打ち克つ行の末に得た「真理を見る眼」
- 一、解空第一 スプーティ（須菩提）
無欲無諍でだれよりも厚く供養を受ける
- 一、説法第一 プールナ（富楼那）
釈迦をうならせた布教活動への志
- 一、広説第一 カーティヤーヤナ（迦旃延）
苦勞しながらも異国の地での布教に励む
- 一、持律第一 ウパーリ（優波離）
下級の身分ながら一途な信仰で教団の信任を得る
- 一、密行第一 ラーフラ（羅睺羅）
父、釈迦の定めた規則を守って便所で寝る
- 一、多聞第一 アーナンダ（阿難・阿難陀）
經典會議を機に悟りを開く

いつの時代であれ人々は四苦（生老病死）八苦（愛別離苦、怨憎会苦、求不得苦、五陰盛苦）があり、それ以上でもそれ以下でもありません。四諦・八正道の真理を見きわめる仏の教えは、変容することのない教えの中心です。

釈迦在世の頃、キサー・ゴータミーという女性がいました。愛しい幼子が死んでしまい悲しみて半狂乱です。可愛い我が子を抱きかかえ、釈迦のところへいき願い出るのです。

「どうかこの子を生き返らせる術をお授け下さい。」釈迦は静かに「よろしい。街へ行きこれまで死者を出したことの無い家を探してそこから芥子の粒をもらってきなさい……。」

女は勇んで街へ行き、家々を訪ねては死者を出したことの無い家を訪ね歩いた。だが、どの家も死者を出したことの無い家など無いことに気づいた。愛する者を失ったのは自分だけではないと……。人は死から逃れることは出来ないこと知ったのだった。

女は出家し、仏弟子となりました……。

折りふしのはな

やぶらん（藪欄）

おや、ここに去年

やぶらん咲いてたかしら？

目立つ花ではないけれど
木の下で

ひっそりと咲く藪欄に

「随所に主となる」って

こう言うことなのかな……と

自分なりに 妙に納得

心惹かれたひとときです

（遊）



月例行事案内

◎八 日 午後二時

薬師如来祈禱会 観音経読誦

◎十二日 午後二時

智泉院法要日（於・日本橋茅場町）

◎十八日 午後二時

観音経読誦法要（於・神木観音堂）

◎二十八日 午後二時

不動明王護摩供修行

□祝・七五三お詣り（予約受付中）

*御札・御守り授与します

*毎朝六時より公開で朝のお勤めをしております

ご都合のよろしい時にはご一緒にどうぞ

どなたさまでも
ご参詣下さい



みんなで歌いましょう

なつかしいアコーディオンの音色で
小さい頃口ずさんだ歌を
一緒に歌ってみませんか
大きな声を出して 身も心も軽やかに
リフレッシュ！ （遊）

*日時 10/8 薬師如来法要終了後
3時ごろから広間にて、40分程度
無料、どなた様もお気軽に

あともがき

○安倍内閣に小泉進次郎氏が初入閣で話題に。多くの期待を背負っての登場に若さと実行力がどこまで……。注目されます。

○自然災害が後を断ちません。ゲリラ的威力に人間は何を学ばべきでしょう。お見舞い申し上げます。

○大相撲秋場所は御嶽海が十二勝三敗で貴景勝を破って優勝。横綱不在の場所でしたが、楽しめました。

○ラグビーW杯日本大会が連日盛り上がりつつあります。選手の体格とパワーに圧倒されます。俄かファンとしても日本ガンバレ！

○日一日と空が高くなり陽光が変化。風にも季節の移ろいを感じます。毎日のご平穏を祈り上げます。

○日帰りで行ってみたい天国へ

・目覚ましのベルはまだか起きて待つ

・苦虫を永年噛んで歯も抜けた

「シルバー川柳」一〇〇選より

月例「止観（坐禅）会」…
19日（土）10:00～11:00（500円）